

PTA会報  
NO 37

# さくら



編集・発行 2023年10月11日  
神河中学校 PTA文化・研修部

## 第13回体育大会（9月16日実施）



選手宣誓（部活動）



学級対抗綱引き（3-1）



応援合戦（レッド/3-2）



連合対抗リレー



部活動行進



みんなでジャンプ（1-1）

## 自分のペースで

神河中学校PTA体育補導部長 前田 裕美子

早いもので、長男が中学校に入学し、二年半が過ぎようとしています。入学した頃は反抗期真っ只中の息子。こちらが話しかけてもそっけなく、返事すらない時もありました。私もそっとしておけば良いのに、しつこく声をかけるので衝突したこともしばしば…。キツイ言葉に心が折れそうなこともありました。

学校にもなかなか馴染めず、登校できる日が少なくなってきた頃、なんとか登校させようとする大人に「なんで学校に行かなあかんの？」と聞いてくることがありました。私なりにいろんな答えを出してみましたが、反抗期の息子には届かず、自分の居場所や目的が見つからないのかなと思い『見守る』という選択をしました。

自宅で過ごすのは暇だろうと思っていましたが、私の心配をよそにいつの間にか料理の腕をあげ、筋トレに励み、仲の良い友達とゲームや電話をして自宅での生活を満喫していました。親としてはいろいろと言いたいことはありましたが、あまり口出しはせずにごっとこらえるのはなかなか大変でした。

先生方の支えもあり少しずつ登校する日が増え、夏休み中にはオープンスクールに参加しました。「これしてみるわ。」「これやったら出来そう。」と自分から考え取り組む姿があり、「次行くのはいつ？」と意欲的な姿に「なんで学校行かなあかんの？」のヒントが見つかってきたのかな…と感じました。

最近になり、やっと反抗期の出口が見えはじめ話をしてくれるようになってきた息子。家では長男らしく妹や弟の面倒を見てくれたり、いっちょ前を射たことを言ってきたり、口調はきついですがマッサージをしてくれたりすると、大きな心配はしなくても大丈夫かもと思えてきます。もちろんまだまだこれからも不安なことはたくさんあると思います。でも人生に無駄なことは無いはずです。ゆっくりと自分のペースで、自分の道を歩いていってくれたらいいかなと思います。



学級対抗綱引き(1-2)

## 不易と流行

神河中学校教頭 上月 里香

今年の体育大会は3年ぶりに観客の制限をなくし、どなたにでも観戦していただける体育大会となりました。しかし、完全に元に戻すのではなく、コロナ禍と同じように開催時間は短縮し、午前中の実施、保護者テントは立てず自由に観覧してもらう形をとりました。完全に元に帰ることを希望した生徒もいましたが、体力的な面、種目数が増えることによる練習時間の確保、保護者の皆様の様々な負担などを吟味して今年度スタイルの体育大会が行われました。

大会自体は、多くの方々の温かい目に見守られながら、生徒は生き生きと元気に演技をし、達成感のある表情で閉会式を迎えてくれました。最後に撮った全校生での集合写真には、学年を超えてつながる「神中生」の姿が収まりました。ご観覧いただいた保護者の皆さまにも、クラスや連合のために自分の役割を頑張るお子様の思いがきっと伝わったと思います。

さて、コロナ禍を経て私たち教師が気づいたことがあります。体育大会の「不易と流行」です。

私が本校に着任の年より、学年の枠を超えてチームを組み、異年齢の集団で一つの物を作

り上げる「連合」方式の体育大会を取り入れました。その年の3年生にはいくらかの反発はあったかもしれませんが、それでも、実行委員の生徒達に意義を伝え納得してもらい、今までの「学級対抗」の方式も残しながらスタートしました。2年目には「応援合戦」を取り入れ、より三学年のつながりが強まるように演技種目を変更し、徐々に今のスタイルが出来上がっていきました。応援合戦初年度の3年生は、それ自体が「何ぞや？」からのスタートで、連合をまとめるだけでなく、演技を作り上げることにかなり苦しんだと思います。そこから5年、今や応援合戦は神河中の体育大会には欠かせないメイン種目となりました。毎年3年生が夏休みから演技内容を考えて準備してくれています。意見が合わずクラス内が分裂したり、協力してくれない子に腹を立てたり、うまく説明できない自分にイライラしたり…と陰でいろんなドラマがあります。しかし、いざ練習が始まると、応援団長・副団長を中心に応援リーダー達が「頼もしい先輩」に変身し、丁寧に後輩に教えてくれます。後輩たちは前で指揮をとる先輩に感謝し、3年生になったら自分達もこうなるんだという気持ちになります。この一体感こそが神河中体育大会の「不易」であると。3年生の学級数に合わせるので、数が合わない学年は学級を解体して数を合わせる等、ある程度の犠牲はありますが、それでも年々レベルアップする「応援合戦」、マスクなしで声だし解禁の「応援合戦」、その迫力や見ごたえ、また、演技している生徒の表情は何ものにも代え難いものです。この一体感のためにも、応援合戦は体育大会の「不易」であって欲しいと願います。そして、時代に合わせ、生徒のニーズに合わせ、「流行」を取り入れながら、生徒と共に行事を企画していかれたらと思います。



学級対抗綱引き (2-3)

## 挑戦 ～未来の自分のために～

2学年主任 山本 浩見

昨年までに比べ制限が少なくなった今年の体育大会。厳しい残暑の中、練習を積み重ねて迎えた本番、生徒たちの一生懸命な演技や輝く笑顔に私たちも大いに元気をもらいました。3年生のリーダーシップのもと、本当に素晴らしい体育大会になりました。3年生のリーダーたちの姿は2年生の目にはどのように映ったでしょうか。

体育大会を終え、いよいよ14回生が神河中学校の中心となる時期になりました。部活動においては、すでに夏休みから各部の部長が頑張っています。10月5日に行われる生徒会選挙にも多くの生徒が立候補しました。新しいことに挑戦しようとする生徒がたくさんいることは大変嬉しいことです。何かに挑戦すると、すべてが思い通りに進むとは限りません。しんどい思いもするだろうし、傷つくこともあるかも知れません。それでも、生徒たちには何かに挑戦する気持ちを持ち続けてほしいと思っています。一人ひとりが持っている可能性は無限大であり、うまくいかなくてもそれをプラスに変える力をすべての生徒は持っていると思うからです。

思春期ゆえに、素直に自分の気持ちを表現できない生徒もいます。目の前のことになかなか集中できない生徒もいます。でも、一人ひとりとゆっくり話すと、みんな素直で心の中には前向きな気持ちを持っていることが伝わってきます。私たちが少し背中を押すことで、その生徒が本来持っているその子にしかない良さを引き出せたらと思い、日々生徒たちと接しています。これからも、未来の自分のために何かに挑戦していく生徒たちを後ろから見守り、支えていきたいと思っています。



吹奏楽部



## 3年生 感想

今回の体育大会は大成功だったと思います。応援合戦は、最初先が全然見えなくて「これからどうなるだろう…」と心配の声が上がるが多々あったけど、日がたつにつれ、みんなの団結力が増してきてオールイエローの子たち1人1人が頑張ってくれたおかげで最高にかっこいい応援合戦ができました。結果は、オールレッドに負けてしまいましたが、結果なんか気にしないほどの達成感が湧いてきて悔しいけどすごく楽しいものになったなと思いました。学級対抗のものでは、クラスが1つになり大縄で1位を取ることができました。しんどい時こそ声を掛け合い励まし合い、全員で協力し合った結果が出たような気がしてすごくうれしかったです！体育大会で培った絆をこれからの生活にいかしていきたいです。

この体育大会を通して、色々なことを学びました。優勝できたことはめっちゃうれしいけど、それ以上にクラスの団結力とかたくさん成長できたので良かったです。クラスでは、どうやったら競技で勝てるかとか、応援合戦ではみんな全力だったし、1、2年生にどうやったら分かりやすく教えられるのかなど、全力で取り組めていて良かったです。個人では、閉会式のアナウンスを初めてして緊張したけどいい経験になりました。他にも1、2年生に教えたり、並ぶために呼びかけをしたり、いつもしないこともできたのでクラスでも個人でも成長できた体育大会でした。

1、2年生のときの体育大会よりもすごく楽しかったです。一番印象に残っている競技は「みんなでジャンプ」です。理由は女子は1回も引っかからずに練習でも飛べなかった70回をとんだからです。綱引きは、1組に勝って、2組にはもう少し耐えていたら勝っていたかもしれなかったのが悔しいです。応援合戦は、みんな大きな声を出していて、自分も負けずに声を出せたので良かったです。勝てなかったけど、一番思い出に残るいい体育大会になったなと思いました。

## 2年生



今年の体育大会は、昨年より練習期間が長かったので、その分昨年より良い体育大会になったと思います。練習の時から自分たちで意見を出して工夫できたこともたくさんありました。本番は思い通りにいかないこともあって少し悔しかったけど、楽しかったです。練習でうまくいっていた大縄は2位で残念だったけど、リレーで1位をとることができて学年で優勝することができました。連合は勝てなかったけど、全員でひとつになって演技することができました。みんなで応援したり、全力で体育大会を楽しめたのでよかったです。来年も良い結果を残せるように頑張ります。

練習がとても難しく覚えてなければならないことがたくさんありました。でも、できるようになるにつれ楽しくなってきた、みんなで揃った時はとても楽しく、気持ち良かったです。でも、大縄は一人が引っかかるとできないので、リズムを合わせるのが難しかったし、リレーも1回バトンミスをするると大きくタイムロスをするので、責任を感じました。本番では、みんなで協力して競技が行え、結構楽しむことができました。

来年は、僕たちがいろいろ動かないといけません。今年よりももっと良い体育大会にしたいです。

練習の時はみんなでタイミングを合わせたり、バトンをつないだりすることが上手くいかなくて、どうなることかと思っていたけど、本番では練習の時よりもタイミングが合っていたし、バトンパスも上手くって楽しかったです。みんなで協力したり、声を出したりすれば優勝することもできたし、去年の体育大会よりも楽しくなりました。どうすればリレーが速くなるか走順を考えたり、綱引きで声を出して引っ張ったり、どうすれば勝てるんだろうとみんなで考えることでクラスの絆が深まったと思いました。合唱コンクールでは、体育大会よりもみんなで協力して、どうすればいいのか考えられればいいなと思います。

## 1年生



僕がこの体育大会で思ったことは、体育大会をやることで、得られるものがたくさんあるということです。なかでも、僕たち1年1組はすごいものを得ることができました。それは、1年1組をクラスにするということです。担任の先生が、予行の次の日の練習のときに「こんなクラスじゃない」と言いました。僕はたしかにそうだと思います。みんなの気持ちが一つになっておらず、ばらばらだと思いました。でも、先生にあの一言を言われてから、みんなは目の色を変えて練習しました。それが、クラスになるための一歩だと思って頑張りました。そして本番、みんなの力を一つにして挑みました。結果は全て一位をとれました。これはクラスのみんなで勝ち取った一位だと思います。僕たちは一人一人がクラスのかげらですが、そのかけらがこの一年の間に一つにまとまるように、次の合唱コンも力を合わせ、一位を目指して頑張りたいです。

練習の時も本番も、3年生の先輩が場所を教えてくれたり、ダンスを教えてくれたりして嬉しかったです。一人一人に合わせて、丁寧に教えてくれました。3年生の先輩たちが一生懸命になって、1、2年生にダンスを覚えてもらおうと工夫したり、どうやら分かりやすく伝えるかを考えてくれたりしていて、私たちも3年生の先輩が頑張っていたので、頑張ろうと思えました。午前中に授業で、午後から体育大会の練習と、すごくしんどくて大変だったけど、皆が頑張っていたので私も頑張れました。しんどいことや、大変だったことは沢山あったけど、でもそれ以上に皆が頑張っていて、頑張ろうと思えました。今年は本番に参加することができなかった人もいますが、次の行事は絶対にクラス全員でやりたいです。それくらい、しんどい事も吹き飛ばせるくらい楽しいクラスにして、学校にくることが楽しくなる雰囲気をつくっていきたいです。3年生や2年生の先輩方にひっぱってもらって、私たちはまだまだひっぱってもらわないと何もできないんだなと思いました。次からはひっぱられるだけじゃなくて、自分からも進んで行動できるようにしたいです。自分から行動することも大切だけど、皆をまとめることも先輩達がやってくれていたのだから、まとめる力も大切なんだなと思いました。今、3年生がやってくれていたことを考えると難しいけれど、少しずつできるようになっていきたいです。



応援合戦（イエロー）



## 文化・研修部のみなさん

### 「第13回体育大会」を終えて

竹内 誠一

コロナ禍前に近い状態で開催された「第13回体育大会」を、長女は最終学年で迎えることができました。これまで色々な制限を受けてきたこの学年。中学校最後に、ほぼ通常規模の大会ができたことを幸せに思います。その長女が今年度、体育部の副部長という重責を与えられ、体育大会開催前の準備段階から、先生方や部内の仲間に支えられ、取り組んでいたことが印象的でした。

しかしその過程の中では、方法などが分からず悩んでいた時もあり、何度か相談してくれました。その都度アドバイスしましたが、その悩みからも娘の成長が見られ、3年間という時の重さを感じました。

そして体育大会当日、天候にも恵まれ開催されました。娘の中学校体育大会を初めて観覧する私にとって、全学年、各クラスが一致団結して競技や応援をする姿に、高揚感を感じずにはいられませんでした。そんな中、副部長および実行委員として大会の裏方に従事する娘。緊張した顔が見られましたが、生徒の皆さんが気持ちよくプレーできるように自分なりにがんばっている様子が見られ、家庭では見られない姿にうれしく思いました。

帰宅後、「ようがんばっていたな」と労をねぎらうと、娘は自分のことよりも「自分のチーム（ブルー）が最下位で悔しかった」と一言。その言葉から、夏休み明けからの練習で、どれほどチームとしてまとまっていたか、その一員として取り組んでいたかがよく分かりました。

中学校生活も約半年となりました。受験という大きなハードルが待っていますが、同時に、中学校最後のクラスメイトとともに、楽しく思い出に残る半年にしてくれたらと思います。

### 体育大会を終えて

高橋 佳奈

今年度は数年ぶりに観覧人数制限もなくなり、絶好の体育大会日和の中、子供たちの頑張る姿を応援することができました。

夏休みが終わり、すぐに練習がスタートし、まだまだ暑い中でいろいろと大変だったと思いますが、それぞれ連合チームで競技に団結し、一生懸命取り組んでいる姿に日々の練習の成果を感じました。

全員リレーでは、生徒一人ひとりが精一杯走り、バトンを繋げていく姿、出番が終わった後も仲間の応援をしている姿に感動しました。また、3年生が主体となり作り上げた各連合の応援合戦には圧巻させられました。3年生は一から構成を考え、下級生に教える立場で大変だったと思いますが、とても迫力のある応援合戦を完成させていました。

生徒全員が楽しそうにしている姿は、私たち保護者の心を温かくしてくれました。皆と懸命に練習し勝負にこだわり、体育大会に挑んできた経験はこれからの人生においても特別な教訓になると思います。

最後になりましたが、先生方、暑い中、側で子供たちを支えご指導していただきありがとうございました。

## 夏休みを終えて

香川 由貴子

我が家には、四人の子供達と二匹の猫がおり、それはそれはにぎやかな生活を送っている。一番末っ子長男の中学二年の夏休みを振り返ってみたい。

始まる前には長い夏休みをどう過ごすのだろうと、当の本人よりも不安でたまらなかった。夏休み終了間際に課題に追われている姿しか思い浮かばなかったからだ。しかし今回は何か違った。部活動に明け暮れて、気が付けば新学期を迎えていたという感じだった。しかも喜ばしいことに、親がヤイヤイ言わずに長男主体で過ごせたようにも思う。

長男は野球部に所属し、小柄で華奢な体格ながら、末っ子なので負けん気は人一倍強い。部活仲間と何かトラブルなど起こしやしないかと冷や冷やしていたが、その心配をよそに暑い中での練習を通じて先生や仲間との絆もより一層深めているようにも感じている。また、部活動を通じて、準備に対する考え方も成長したようだ。まだまだ不十分でムラはあるが時間的な段取りや前日からの取り組みなど、去年に比べてできることや自覚が随分増えた。顧問の先生方のご指導に感謝しかない。今まで親のペースで段取りを指示してしまいがちだったが、本人のペースがどんなものか待ってみようという私自身の心の余裕もできた。初めて子供と良い距離感が保てているかもしれない。そして、子育てしながら私自身も学ぶことができたようだ。

我が家の子育てもう終盤。せっかくなので「楽しく笑顔で」をモットーに楽しんでいきたいと思っている。



寄稿してくださった皆さま、ご協力ありがとうございました。



生徒会ダンス (2-2)



連合対抗リレー



選手宣誓



みんなでジャンプ (2-1)



学級対抗綱引き (3-3)



部行進旗手

神河中学校 3年生（上から1組、2組、3組）

